

論文の内容の要旨

論文題目：マイクロファイナンス利用にみる人びとの暮らしを守る実践
-バングラデシュのマイクロ医療保険調査を基に

氏名 石坂貴美

本研究の目的：

本論文の目的は、バングラデシュにおける人びとのセーフティ・ネットのひとつとして、NGO やマイクロファイナンス機関（以下、NGO/MF 機関）が提供するマイクロ医療保険に注目し、実態調査結果を基に人びとの医療費支出への対応や金融サービスを巡る意識や行動から暮らしを守る実践をあきらかにすることである。

調査の背景

傷病や事故、災害、犯罪等の暮らしに悪影響を与える出来事（ショック）が発生すると、対応しきれずに貧困に陥ることがある。貧困に陥ると、健康状態や住環境を十分に保つことができず、ショックに見舞われるリスクがより高くなる。さらに、貧困層は所得が低く資産が少なくショック対処法が限られている。このため、ショック発生時の損失を防ぎ、被害を最小に抑えるセーフティ・ネットの構築は国際開発において重要課題となっている。しかし、低所得国の政府は財政難のため、十分な制度を構築することが難しく、所得が低い国ほど整備が遅れている。

本研究のフィールドであるバングラデシュは南アジアのなかでも特に社会保障制度の整備が遅れている。同国においてショックとして最も頻繁に発生しているのは医療費支出であるが、健康保険制度はなく、民間の医療保険は貧困層を対象としていない。一方で、NGO/MF 機関が経済、教育、医療等の様々な分野で貧困層を支援しており、マイクロファイナンスの

ひとつとしてマイクロ医療保険を提供する例もみられる。しかし、マイクロ医療保険は、保険料を低く抑えているため保障の範囲が限られており、また、保険の知識不足により利用が阻害されているという課題も先行研究で指摘されている。

調査の目的と対象

そこで本研究では、以下の4点をあきらかにするために NGO/MF 機関が提供するマイクロ医療保険について調査を実施した。

- ① 高額医療費を含む医療保険の医療費カバー率
- ② 医療保険でカバーされない医療費の財源
- ③ 医療保険加入者の保険の関する知識や認識
- ④ 他の金融サービス（融資、貯蓄、生命保険）利用状況

マイクロファイナンスのサービスを提供する NGO の一支所の一年間（2010 年 7 月-2011 年 6 月）に医療保険を受給した者と無作為に抽出した非受給者を対象として調査票による調査を実施した。この支所は北西部の地方都市にあり、市街地と近郊の農村をカバーしており、都市および農村の世帯両方の社会経済状況をみることができる。さらに、市内には公共医療施設のみでなく民間医療機関（営利、非営利）が多数存在し、初期治療から大学病院における高度医療まで多様なレベルの治療がみられる。医療費も少額から高額まで幅広くみられ、高額医療費を含めた医療費のカバー率の検証が可能である。

調査票を用いたインタビューでは、筆者が現地の公用語であるベンガル語を用いてマイクロファイナンス利用者本人から聞き取りを行った。医療保険受給者 137 人、非受給者 138 人から回答を得た。調査票に基づくデータに加えて、語り・つぶやき、参与観察による NGO スタッフや他利用者らとのやりとり等をメモにとり、ノーツとして記録した。これらの量的・質的データを基に分析を行った。

調査結果

1. 低い医療費カバー率と知識・認識

調査結果では、医療費カバー率平均は 14%と低く、医療費の大部分は自己負担によって賄われ、医療費財源として世帯収入のみならず、融資・借金の借入、資産売却、消費を抑制する等、暮らしの水準を悪化させ貧困からの脱却を妨げるような対処法をあげる例もみられた。この医療保険は、融資に付随した強制加入であるため、融資は借り入れたが医療保険に加入しているという認識がないために保険を受給しなかった例やスタッフが業務の負担が増えるのを避けるために保険申請の手続きを妨げる例もみられた。さらに、保険金が利用者の手に渡ることなく、滞った融資返済の支払いに充てられる例もみられ、この医療保険がセーフティ・ネットとして十分に機能しているとはいえないことがあきらかにされた。

2. 医療保険を巡る人びとの知識と行動

このように課題の多い医療保険であるが、調査対象地域には他に医療保険を提供する NGO/MF 機関がなく他に選択肢がないため「ないよりはまし」と捉えられることもあり、数多くの機関からこの NGO を融資借入先として選択した際の理由に、融資に保険が付随することをあげる融資利用者が最も多くみられた。また、医療保険加入を目的に他の NGO/MF 機関が融資借入先を変更し、実際に保険を受給している例もみられた。

3. 金融サービスを巡る利用者の戦略

選択肢の限られた医療保険に対して、より多く選択肢が存在する金融サービスに目を向けると、サービスを巡る利用者の戦略がみてとれた。

融資借入先を選択する理由では、融資そのものではなく付随する貯蓄や保険サービスの充実が重要視されている。医療保険に加入できることが融資借入先理由のトップにあげられている。また、この NGO が提供する自由に引出が可能で流動性が高いことから利用者から評価されていた。この貯蓄口座から引き出されたお金は、融資返済、医療費支払い、教育費や食費の消費に充てられており、返済のためのさらなる借金を防ぎ、急な医療費支出に対応し、消費を平準化する役割を果たしていた。

また、複数の機関の金融サービスを利用している例もみられ、約 2 割の世帯が他機関でも融資を受け、貯蓄を他機関で利用している世帯は 4 割を超え、約 3 割が保険会社の生命保険に加入している。任意で保有する定額積立や生命保険の長期金融商品を保有する世帯は、4 割を超えている。これらの金融商品は、資産を形成するのみでなく、将来起こりうる冠婚葬祭や家族の死亡等、家計に大きな負担を与えることが予測されるリスクに備える役割もあるといえる。さらに、融資を受けて得た資金を定期預金に預け入れる、もしくは、生命保険の保険料を支払うために融資を利用する等、負債を抱えてまでも長期金融商品を確保しようとする例もみられた。このように、多くの機関が提供するさまざまな商品のサービス内容を比較し選択して、複数の機関を戦略的に利用する利用者の存在があきらかになった。

結論

NGO のマイクロ医療保険は利用者の暮らしを守るセーフティ・ネットとして十分機能しているとはいいがたい状況であるが、他に選択肢がないために提供する NGO の競争力を高めている。バングラデシュには NGO/MF 機関が多数存在するため、激しい競争を強いられており、ニーズの高い医療保険を提供する他の NGO/MF 機関が将来出現する可能性はあると考えられる。他に医療保険を提供する機関が増えれば、この地域で唯一医療保険を提供するとして「ないよりはまし」として受け入れられていた NGO の医療保険サービスも改善せざるをえなくなるだろう。そのためには、高額医療費への対応策、スタッフの保険に対する意識改善、保険に関する利用者の知識向上等が必要である。また、医療保険と同時に予防、保健サービス等の利用者のリスクに焦点をあてる対策も有効であろう。

保険は、より多くのリスクプーリングが必要であるため、マイクロファイナンス業界全体で医療保険提供およびサービス改善にむけての取り組みが必要であろう。また、NGO/MF 機関は不十分で不平等な社会保障制度を補完する位置付けとして活動してき、NGO/MF 機関の努力のみで、人びとの暮らしを守るには限界がある。生活の安定と福祉を促進するためには、社会保障制度の構築も必要である。

他国では、このような NGO/MF 機関の限界を超えるべく、政府や保険会社等と提携して保険を提供する例がみられる。これら他国の経験は今後のバングラデシュのマイクロ医療保険の発展に示唆を与えるであろう。

論文の構成

序章および1章から3章は、本研究の背景、先行研究をまとめたものである。4章から7章にかけて、バングラデシュで実施したマイクロ医療保険の実態調査結果を提示し、結論にてマイクロ医療保険の課題と可能性について述べた。

1章では、バングラデシュにみられるショックとその対処法に関する先行研究を用いて同国のリスクや脆弱性についてまとめ、2章では、バングラデシュのセーフティ・ネットに関して政府のプログラムと労働法を取り上げ、社会保障の課題について述べた。3章は、バングラデシュのマイクロファイナンスの概要、成果と課題について述べた。

4章では、バングラデシュのマイクロ保険およびマイクロ医療保険の概要を示し、先行研究を基に医療保険を類型化した。また、調査の概要、調査対象となる NGO の医療保険の仕組みを提示した。5章では、調査対象世帯の経済社会的データ、医療費とそのカバー率、利用者の保険に関する知識について分析を行った。6章では、医療費支出への対応についてデータを提示した。医療費を支払うために複数の財源が駆使されており、世帯収入、資産売却、貯蓄引出、融資や借金、家計消費抑制等がみられ、暮らしの福祉水準を低下させる対応も多くみられた。7章では、調査対象の NGO および他機関の金融サービスの利用実態をあきらかにした。貯蓄と保険に対する高いニーズが示され、複数の機関のサービス内容を比較し選択して戦略的に金融商品を保有する例がみられた。所得が少ない世帯においても金融商品が保有されており、なかには借金や消費を抑制してまで長期の金融商品を保有する例がみられた。

結論では、調査結果を基にマイクロ医療保険の可能性と課題について述べ、補論では、今後のマイクロ医療保険の発展に大きな示唆を与えうる世界のマイクロ保険について概観した。